

PI手法による「いかるがパークウェイ」の整備について

奈良国道工事事務所 調査第一課 高田専門職

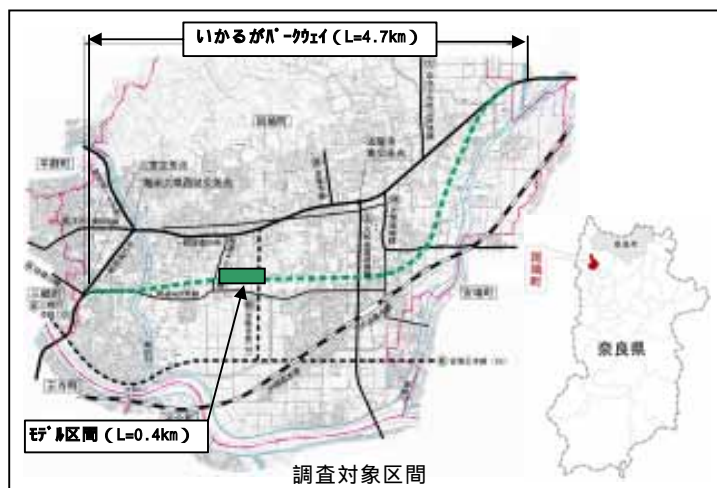
1. はじめに

奈良県斑鳩町の市街地を通過する一般国道25号の渋滞緩和、交通安全の確保及び地域活性化を図るため、昭和47年度に「いかるがパークウェイ」は事業化されたが、一部の沿線住民から理解が得られず、地元調整に時間を要してきた。

このため、「いかるがパークウェイ」にモデル区間(400m)を整備し、実際に住民の方々に見て、触れていただいて、事業についての理解を深めて頂くことにした。

なお、整備内容については、PI手法を取り入れ、斑鳩町と地元自治会の代表からなる「いかるがパークウェイ推進協議会」を設置し対話の場を設けるとともに、パンフレットなどによる広報やアンケートによる意見募集など行政と地域住民との双方向コミュニケーションを進めてきた。

これら、行政と住民との対話により、いかるがパークウェイにおいては、地域住民に愛される魅力的なみちづくりが整備されるものと確信する。



2. 事業を進める上での問題点

当該地域を通過する一般国道25号は、慢性的な交通渋滞や騒音に悩まされるとともに、歩道が一部で未整備であるなど、交通安全上からも早急な整備が望まれていた。また渋滞を避ける迂回車両などが生活道路に入り込むなど、その周辺道路においても安全性、渋滞についての対策が急務であった。



また、当該地域における道路整備の遅れは、法隆寺などの観光客減少あるいは若者の流出や高齢者割合の増加など、社会・都市問題の大きな要因の一つと考えられ、まちづくりの観点からも道路整備が求められていた。

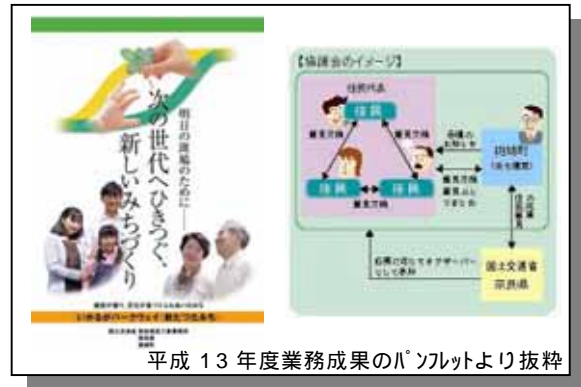
しかし、一部の沿道住民からは、一般国道25号のバイパスとして、その沿道環境悪化や交通事故を誘発するなど、「負」のイメージが先行し、長年に渡り反対の声があがるなど、話し合いの場が持てない状況であった。

3. 問題解決に向けた施策

3.1.地域住民への広報

事業化以来30年近くの年月が経っていることから、まず、いかるがパークウェイのことを知っていただく必要があると考えた。

平成13年度において、一般国道25号や周辺生活道路の現状とパークウェイの整備効果などを示したパンフレットを作成、全戸配布し、地域の方々に理解を求めるとともに、その中で今後事業を進めるにあたり協議会を設置し、国と奈良県、斑鳩町の各行政間で協力し、地元住民代表との協働で計画を進めていくことの方針をお知らせした。



平成13年度業務成果のパンフレットより抜粋

また、同時にアンケートによるパークウェイへの期待や不安などの意見を集めた。

推進協議会において決定した、「いかるがパークウェイ」及び「モデル区間」の整備方針や整備計画については、チラシにとりまとめ、それを斑鳩町全戸に配布し、町主催の催し物に「モデル区間」の模型を展示するなど、地域住民に対し、本事業整備の推進について広報活動を行った。

3.2.いかるがパークウェイ整備方針及び整備計画

平成13年度発足した住民代表者と行政からなる推進協議会において、「いかるがパークウェイ」の整備方針及び整備計画を策定した。

(1) いかるがパークウェイの整備方針

世界遺産である法隆寺あるいは地域住民に親しまれている竜田川や三室山などから、右に示すメインテーマ及びサブテーマを定め、これらより整備方針(案)を決定した。

【メインテーマ】

いかるがらしい、新しいみちづくり

【サブテーマ】

歴史・文化が香るみち

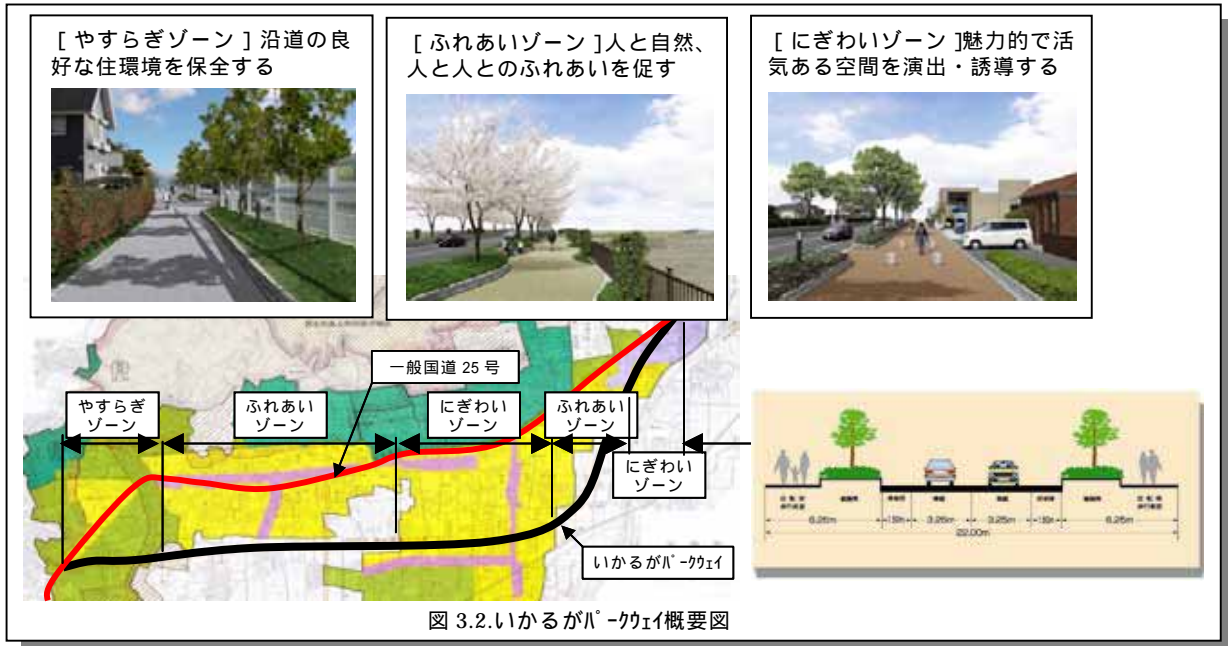
人にやさしい、安全・安心のみち

緑豊かな、ゆとりあるみち

(2) いかるがパークウェイの整備計画

のどかな田園地帯には「ふれあい」、閑静な住宅地には「やすらぎ」、駅や幹線道路周辺は「にぎわい」という、沿道の土地利用にきめ細かく対応した「調和のとれたみちづくり」として整備計画(案)を決定した。(図 3.2.いかるがパークウェイ概要図 参照)

ゾーン名	沿道土地利用	整備方針	舗装・樹木
ふれあいゾーン	市街化調整区域や農地	人と自然、人と人とのふれあいを促す。	・植樹帯2.5mの形状は波形、ベンチを設置し「ゆとり」を演出。 ・舗装色は落ち着きのある「グレー系」を基本とする。 ・地域を代表する高木を選定。
にぎわいゾーン	近隣商業や第一種住居地域	魅力的で、活気ある空間を演出誘導する。	・人通り多く活気溢れる自歩道の幅員は4.75mと広く確保。 ・にぎわいをかもしだす「茶系」を採用する。 ・管理容易な高木とにぎわいを演出する低木の組み合わせ。
やすらぎゾーン	住居専用地域	沿道の良好な住環境を保全する。	・道路側と民地側に植樹帯を設け、「やすらぎ」を確保。 ・舗装色は落ち着きのある「グレー系」を基本とする。 ・「やすらぎ」をかもしだす常緑紅葉樹



3.3.モデル区間整備方針及び整備計画

「いかるがパークウェイ」全線整備に向けた「モデル区間」の整備方針及び整備計画を推進協議会において策定した。

策定にあたっては、CGや模型の分かりやすい資料を活用し、「いかるがパークウェイ」にふさわしい舗装材や街路樹など各ゾーンの整備方針に従い選定した。

また、共通のデザインである歩道照明や車止めについては、歴史や文化を感じさせる落ち着いたデザイン、素材のものを選んだ。

ふれあいゾーン A-1		ふれあいゾーン A-2	
	 サクラ (落葉広葉樹)		 モミジ (落葉広葉樹)
 玉砂利舗装 (きみがかったグレー)	 ハビ'ャクシ'ン (常緑針葉樹)	 薄アスファルト舗装 (うすいグレー)	 コクサ'サ (常緑多年草)
中間ゾーン B-1		中間ゾーン B-2	
	 シラカシ (常緑広葉樹)		 クスノキ (常緑広葉樹)
 平板'ロック舗装 (天然石仕上げグレー)	 リュウヒ'ラグ (常緑多年草)	 平板'ロック舗装 (R'リア'リ'ア'ン'タイプ 淡い茶系)	

<p style="text-align: center;">にぎわいゾーンC-1</p>  <p>ニセアカシア (落葉広葉樹)</p>  <p>玉砂利舗装 (うすい茶系)</p>  <p>マツバキク(常緑多年草)</p>	<p style="text-align: center;">にぎわいゾーンC-2</p>  <p>トウカエデ (落葉広葉樹)</p>  <p>カラアスファルト舗装 (明るい茶系)</p>  <p>アリアケラン(常緑多年草)</p>
<p style="text-align: center;">やすらぎゾーンD</p>  <p>マテバシイ (常緑広葉樹)</p>  <p>玉砂利舗装 (うすいグレー)</p>  <p>オハジヤルゲ(常緑多年草)</p>	<p style="text-align: center;">付属施設デザイン</p>  <p>車止め(アルミ)</p>  <p>車止め(コンクリート)</p>  <p>歩道照明</p>  <p>植樹ブロック</p>  <p>防護柵</p>

4. おわりに

事業化以来、工事着手まで約30年近くの歳月を要したが、広報や推進協議会などにおける行政と住民との対話により、「いかるがパークウェイ」及び「モデル区間」の整備(案)をとりまとめることができた。また、平成16年度春には「モデル区間」が供用される予定である。

今後は、この「モデル区間」における通行体験会や現地見学会公共施設等へのパネル展示やホームページの開設等のPR施策により、いかるがパークウェイの認知度を高め、モデル区間の整備内容について、評価のとりまとめを考えている。

本件において特筆すべきことは、国と地方自治体、住民代表の協働作業により、地域住民に対して道路整備の必要性や道路行政への関心を促したことである。

このことは、道路行政への理解を深めるだけでなく、住民自らが参画するということを実感していただいた。その成果として、斑鳩町が主催したセミナー会場に展示されたCGや模型に多くの人々が関心を持ち、またセミナーにも多くの聴衆が集まるなど、地域住民の意識にも現れはじめている。

奈良国道事務所では、引き続き推進協議会が中心となり、地域住民への「みちづくりやまちづくり」に対する関心を高めながら、地域とともに「いかるがパークウェイ」の整備を進めていきたいと考えている。

